

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事例概要について】



1. 事故・ヒヤリハットの別	事件事例
2. 体験した事例の名称	消防救助技術（ほふく救出）訓練の二人抱きかかえ搬送時における負傷
3. 体験した事例の中心的要素	二人抱きかかえ時、要救助者を抱えゴールに向かい5歩程度、駆け抜けようとした時、左腓腹筋が断裂したものの。
4. 体験した事例の原因・理由	経年、日常的訓練で有った為による慣れ及び疲労、準備運動不足によるもの。

【体験した事例の直接的な原因について】



1. 体験した事例の直接的な原因	行動の意志決定に問題があった。
------------------	-----------------

【体験した事例について】



1. 発生日時	平成 17 年 5 月 18 日 午後 3 時頃
2. 発生した当時の天候	晴
3. 発生した活動現場	屋外：消防訓練場
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	軽傷の怪我
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	その他：左腓腹筋断裂
7. 事例体験時の活動	演習訓練、 [救助（大会に向けた訓練）、]
8. （7の活動中） どのような作業中に発生したか	低所救助訓練、
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した。

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[31]歳、勤続年数[8]年、現場経験年数[8]年、階級[消防士]、同様の活動[頻繁]、任務[隊員]
○当事者B	年齢[29]歳、勤続年数[5]年、現場経験年数[5]年、階級[消防士]、同様の活動[頻繁]、任務[隊員]
○当事者C	年齢[35]歳、勤続年数[16]年、現場経験年数[16]年、階級[消防士長]、同様の活動[頻繁]、任務[機関員]
その他 (当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過1	Aが	ほふく救出1番員で二人抱きかかえ搬送	左腓腹筋断裂
経過2	Bが	ほふく救出2番員で二人抱きかかえ搬送	
経過3	Cが	ほふく救出3番員(要救助者)	
経過4			
経過5			
経過6			
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			

【その事例発生時の状況について】



- 事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思えるか？
 ヒヤリハットの場合 : ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思えるか？

体力、反射神経等身体能力が劣っていた。危険情報を把握、予見できなかった。集中力、注意力がなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならぬという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	はい

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	はい

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	はい
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	はい
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	はい

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

いいえ

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

- ・準備運動を完璧に行う。
- ・体調管理に努め、体調不良時は訓練見学等に切り替える。
- ・初心を忘れず（訓練慣れせずに）、訓練を行う。

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について

- ・経年行っている訓練でも、1年を通じた日の浅い開始時期の（ほふく救出訓練は4月頃～7月頃まで）4、5月頃の隊員の訓練進行状況に見合った訓練内容に努める様、始動する。
- ・隊員の体調を常に把握する事に努める。